

2023 年度事業報告

2023 年度の社員総会で議決された事業計画の実施結果を下記のとおり報告する。

I. 総括

セーフティグローバル推進機構は、2016 年 7 月に設立以来、国際フォーラムの開催、2020 年発行の IEC 白書 “Safety in the Future” への参画、2022 年の第 2 回ビジョンゼロサミット 2022 の日本開催を誘致するなどの国際的な活動により、世界各国の安全関連団体と関係を構築してきた。昨年度は未来モノづくり国際 EXP02023 のフェアインフェアイベントとして展示会やウェルビーイング国際シンポジウムの開催により、国内外においてセーフティグローバル推進機構の認知度が向上している。また 2024 年 1 月に新たな委員会として「モノづくり委員会」を発足し、セーフティグローバル推進機構の認知度向上とともに会員増加にもつながっている。

近年、欧州を中心に、職場における「安全、健康、ウェルビーイング」を提唱するビジョン・ゼロ活動が展開されているなか、ビジョン・ゼロ活動を推進してきたセーフティグローバル推進機構としては、働く人の身体的な安全が確保され、肉体・精神の健康が実現された上で、心の在り方としての生きがい、やりがいをもって働くというポジティブな側面にも目を向けた安全活動（ポジティブ安全）が重要であると考え、「働く人の安全、健康、ウェルビーイングの向上を」を広く普及させるために、書籍『実践！ウェルビーイング』を 2023 年 5 月に発行した。

II. 重点施策活動概要

1. 認証スキーム

要員認証制度及び適合審査の拡大を積極的に推進する。

1) ロボットセーフティアセッサ資格認証制度

2023 年度のロボットセーフティアセッサの受験者数は、300 名の目標を設定したが、前年度の 235 名から 243 名と微増に過ぎず、目標の達成には至らなかった。

ロボットセーフティアセッサのメインターゲットであるシステムインテグレータの受験者数の増加のために、日本ロボットシステムインテグレータ協会（以下 Sier 協会）向けのロボットセーフティアセッサ、セーフティサブアセッサの講習会を実施したが、受験者の増加には結びついていない。

2) セーフティオフィサ資格認証制度

2023年度のセーフティオフィサ資格の受験者は1,400名の目標に対し結果は1,179名で未達成であったが、目標とともに2022年度実績(1,258名)にも未達成に終わる。主な要因として昨年度まで会社施策としてセーフティオフィサの取得を実施していた大手顧客などが取得対象者の受験を終えたことが考えられる。

3) Safety2.0 適合審査登録制度

Safety2.0 適合審査登録制度は、2018年2月に開始し、2019年度は6件、2020年度は3件、2022年度は1件の審査登録数で推移してきた。2023年度は適合審査登録を6件の目標を設定したが、Safety 2.0 適合審査登録のメリット(費用対効果)を十分に訴求できていないこともあり、3件という結果に終わった。2024年度からはセーフティグローバル推進機構をスキームオーナー、日本認証を認証機関とする新たな体制を構築して、積極的な活動を実施する。

2. 広報・出版

1) ウェルビーイング・テック、国際シンポジウム

セーフティグローバル推進機構が主となって、日刊工業が開催する未来モノづくり国際EXPO 2023の展示会が、インテックス大阪にて2023年5月10日から5月12日まで行われた。この展示会にフェアインフェアとしてウェルビーイング・テックを開催した。5月11日には、「働く環境でのウェルビーイングー我々の課題と戦略的対応」をテーマに、世界各国の専門家や有識者によるディスカッションおよび講演が行われました。さらに、5月12日には、来日した海外の専門家や有識者向けに、新名神高速道路工事現場(トンネル現場)や川崎重工業株式会社(ロボット工場など)の視察を実施した。

2) 安全経営フォーラム

2023年6月30日機械振興会館において、安全経営フォーラムを下記テーマで開催した。

- ① 「セーフティグローバル推進機構の活動進化 構想から実践へ & 交流から連携へ」 IGSAP 藤田俊弘理事
- ② 「経営とウェルビーイング」 日本大学 中村英夫名誉教授
- ③ 「ウェルビーイングの実践とその手ごたえ」 日揮グローバル株式会社 杉本 亨様
- ④ 「人と機械が安全・安心に協調して働ける工場に向けて ～トヨタにおける取り組みの現状と課題～」 トヨタ自動車株式会社 太田裕一様

3) 書籍の執筆、発行

コロナ・パンデミックを契機として次の時代の価値観として、“安全な環境に囲まれて、幸せに暮らせる社会”の実現が強く望まれつつあるなか、企業においてウェルビーイングが大きなテーマになってきている。業界・業種を超えた安全

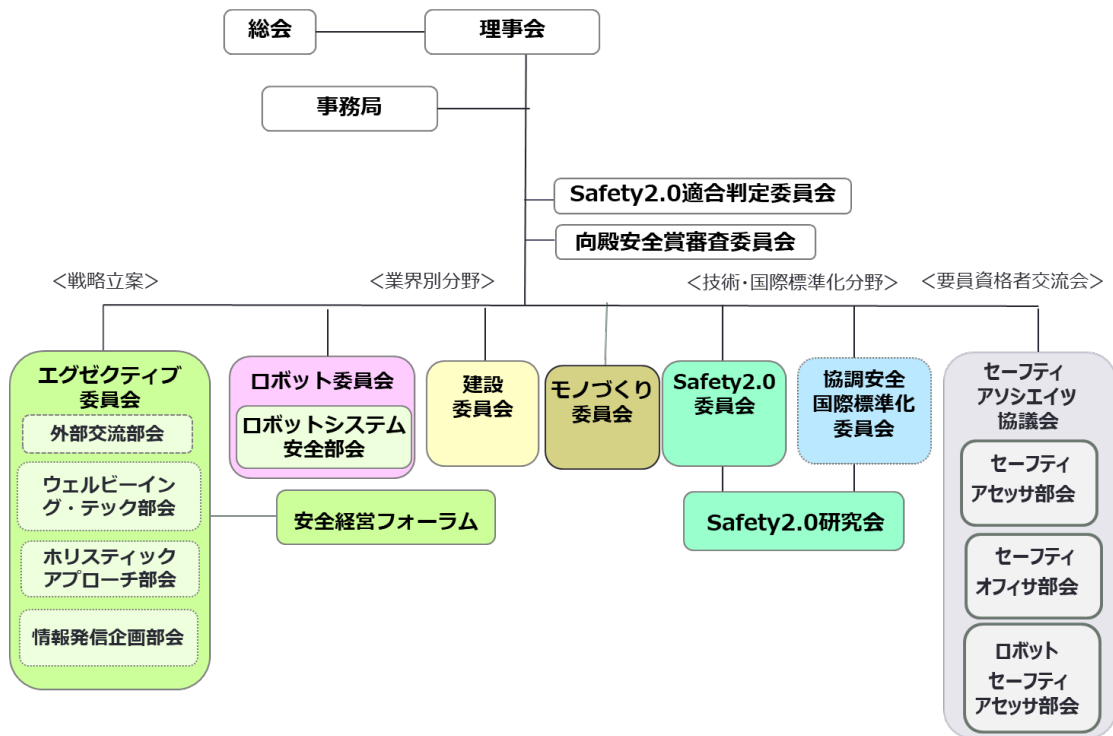
化に対する幅広いニーズに応えるセーフティグローバル推進機構として、「働く人の安全、健康、ウェルビーイングの向上」の広報を目的とし、ウェルビーイングを実践するための具体的な方法を提示した「実践！ウェルビーイング」を2023年5月に発行した。本書は情報発信&出版企画部会が中心となり、国内外の専門家に執筆頂いたセーフティグローバル推進機構として初めての著作である。

4) GISHW (Global Initiative for Safety Health and Well-being @ EXPO2025 and BEYOND)での活動

「地球市民 80 億人の安全・健康・ウェルビーイング向上の実現を目指す」グローバルな組織である GISHW に、セーフティグローバル推進機構はプログラム主催者の一員として、4 月のスペインでのキックオフ会議、5 月の大阪での第一回 GISHW 会議、11 月オーストラリアでの第 2 回会議に参加して、GISHW の体制、役割さらに EXPO2025 でのサミットやシンポジウムなどの企画、検討を始めている。

3. 委員会活動

コロナ禍の影響で、委員会はオンライン会議を中心に開催していたが、オンライン会議の利便性により出席率は向上するが、会員間のコミュニケーションや議論等が課題となった。昨年度からは、徐々にハイブリッド会議（集合会議とオンライン会議の併用）を中心にするにより、会員間のコミュニケーションは改善してきている。SA 協議会（セーフティアソシエイツ）内にセーフティオフィサ部会を新設し、セーフティオフィサ資格の社会的認知度の向上と資格者の地位の向上、技術力の向上を目指して活動を開始した。



図：セーフティグローバル推進機構の組織図（2023年度）

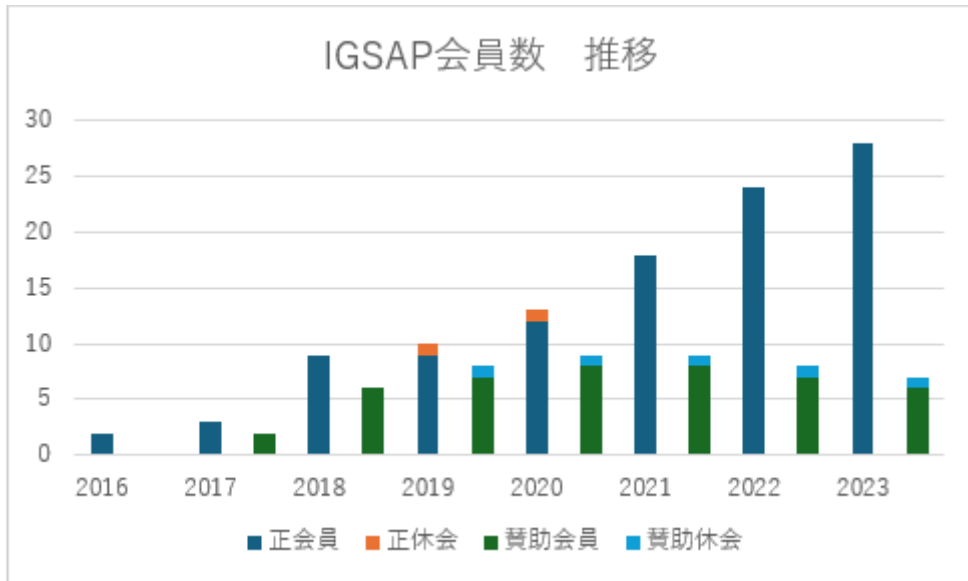
委員会、研究会、部会	責任者
エグゼクティブ委員会、安全経営フォーラム	藤田委員長
ロボット委員会	小平委員長
建設委員会	河田委員長
モノづくり委員会	村田委員長
Safety 2.0 委員会	谷川委員長
Safety 2.0 研究会	谷川主査
ロボットシステム安全部会	野田部会長
ウェルビーイング・テック部会	北條部会長
ホリスティックアプローチ部会	梶屋部会長
情報発信企画部会	荻原部会長
SA協議会	小平会長
SA部会	大賀部会長
RSA部会	圖子部会長
SO部会	高木部会長

表：各組織長（2023年度）

4. 会員数

2024年3月末における会員数は、法人・団体会員35社（法人・団体正会員28社、法人・団体賛助会員7社）、個人正会員4名、個人賛助会員（SA協議会会員：SA部会1,622名、RSA部会242名、SO部会66名）である。

2023 年度は正会員として古河機械金属、東珠、パトライト、アトリエ、パナソニックオートモーティブシステムズ、安川電機の6社、賛助会員としてパナソニック インダストリー、レールソリューションズの2社に入会いただいた。引き続き新規会員の入会を促進していく。



表：会員の入退会推移 (2024年3月31日現在)

Ⅲ. 定時社員総会・理事会の活動報告

1. 定時社員総会

2023年6月30日に定時社員総会を開催し、以下の議案が原案どおりに可決された。
(議案)

第1号議案 2022年度事業報告の件

第2号議案 2022年度決算報告、監査報告の件

第3号議案 2023年度基本方針及び事業計画の件

第4号議案 2023年度収支予算の件

2. 理事会

2023年4月より2024年3月までの間に理事会を5回開催し、下記の事項についてそれぞれの決議を行った。

(1) 第1回理事会 (2023年5月17日)

(議決事項)

第1号議案 2022年度事業報告 承認の件

第2号議案 2022年度の決算報告及び収支報告 承認の件

第3号議案 2023年度社員総会 承認の件

第4号議案 正会員入会、賛助会員入会 承認の件

第5号議案 新規程の制定、規程改定 承認の件

第6号議案 あすか税理士事務所との顧問契約 承認の件

(報告事項)

1) ウェルビーイング・テック報告

2) 書籍出版報告

(2) 第2回理事会 (2023年9月13日)

(議決事項)

第1号議案 正会員入会、賛助会員入会 承認の件

第2号議案 決裁権限規程発行、旅費交通費規程の改定 承認の件

第3号議案 武田特別顧問の雇用契約 承認の件

(報告事項)

1) 「モノづくり委員会」発足に向けて

2) 緑十字展

3) Sier協会へのRSA資格制度の促進活動

4) ホームページリニューアルPJの進展状況

5) ウェルビーイング・テック報告(収支、課題など)

6) EXP02025に向けてのGISHWとセーフティグローバル推進機構の位置づけ

7) セーフティグローバル推進機構理事追加と会員数増の取り組み（自由討議）

(3) 第3回理事会（2023年12月13日）

（議決事項）

第1号議案 正会員入会 承認の件

第2号議案 ロボットセーフティアセッサ、セーフティオフィサの資格制度利用料に関する覚書 承認の件

第3号議案 モノづくり委員会の状況と委員長 承認の件

（報告事項）

1) 2023年度予算の進捗状況

2) 2023年度計画と2024年度計画について

3) 「未来モノづくり国際EXPO」後援名義依頼

4) セーフティグローバル推進機構ホームページ中間報告

5) セーフティグローバル推進機構入会メリット検討WG中間報告

6) ウェルビーイング・テックの定義化と今後の進め方

7) Safety2.0 規程見直しの進捗状況

8) A+A、ワールドコンgresシドニー出張報告と今後について

9) GISHWの財務組織化

10) その他

(4) 第4回理事会（2024年1月22日、電磁的決済）

（議決事項）

第1号議案 正会員入会 承認の件

(5) 第5回理事会（2024年3月21日）

第1部

（議決事項）

第1号議案 正会員入会、個人正会員入会 承認の件

第2号議案 顧問の来年度契約の件

第3号議案 2024年度計画、予算案の件

第4号議案 各委員会、部会の2023年度活動報告、2024年度来期計画の件

第5号議案 SA協議会の体制変更(規定改定)の件

第6号議案 ホームページの業者、掲載内容承認の件

第7号議案 建設セーフティオフィサの開発承認の件

第8号議案 セーフティオフィサ制度利用料の覚書改定の件

（報告事項）

1) Safety2.0 審査登録制度及び費用改正

- 2) セーフティグローバル推進機構入会案内リーフレットの最終版
- 3) 大学のセーフティグローバル推進機構入会
- 4) 緑十字賞
- 5) 社員総会日程
- 6) EXP02025 に向けての GISHW の活動
- 7) その他報告事項

第 2 部

国連専門機関の ILO からのセーフティグローバル推進機構並びにセーフティグローバル推進機構会員への EXP02025 とその先への協業活動の提案とお願いについて

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
社員総会			30日									
理事会		17日				13日			13日			21日
建設委員会		26日			28日			9日				1日
ロボット委員会			6日		29日				12日		21日	
ロボットシステム安全部会		16日			21日			14日			13日	
Safety2.0委員会		29日			31日			27日			26日	
Safety2.0研究会		29日			31日			27日			26日	
エグゼクティブ委員会			13日			7日						21日
安全経営フォーラム			30日									
モノづくり委員会										29日		14日

表：2023 年度総会、理事会、委員会、部会、研究会の開催実施日一覧

以上

2023年度活動総括

* 主に成果を中心に

1. GISHW体制を確立しEXPO協会との連携を強化した
 2. 国内外において協調安全に関する普及活動を実施した(ウェルビーイングテックフォーラム、世界労働安全衛生会議)
 3. 委員会傘下の部会においてIGSAPの魅力度・認知度を高める活動を2024年度にかけて推進中である
- 委員会開催日: 第1回6/13 第2回9/7 第3回3/21 安全経営フォーラム: 6/30

重点テーマ	2023年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. EXPO2025に向けて国内外企業、機関と連携したイベント(展示会、シンポジウム、企業視察など)の検討、実施	<ul style="list-style-type: none"> ・世界中の人々の安全、健康、ウェルビーイングの向上を目的としたGISHWへ参画し、運営体制を検討、決定した。 ・2023年5月10日～12日に開催された未来モノづくり国際EXPO2023内で、ウェルビーイング・テックインターナショナル(展示会)を中心として主催し、ウェルビーイング社会を実現する技術展示と国際フォーラムを開催し(5月11日)、安全、健康、ウェルビーイングの講演を実施した。 ・2023年11月27日～30日にシドニーで開催された第23回世界労働安全衛生会議で、IGSAPを中心とする8団体による日本代表団が協調安全の考え方や実践例を発表した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・課題であった財務、予算管理については、日刊工業新聞が担当することになり、IGSAPは企画推進に注力できる環境になった。 ・展示会、フォーラムを通じてウェルビーイング・テックの広報活動には成功した。財務的には▲2百万円を見込んでいたが、▲約1.6百万円に抑えることができた。 ・世界労働安全衛生会議で、労働安全衛生分野に対して協調安全の考え方や実践例などの認知・普及活動を実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、GISHWに参画して、関係団体とともにEXPO2025の企画立案、推進する。 ・2025年のEXPOに繋げるように、来年度もウェルビーイングテックフォーラムを計画する。
2. IGSAP Webサイトのリニューアル検討(情報発信部会)	情報発信部会内にプロジェクトチームを設置し、Webサイトのリニューアルを推進している。	○	現状分析と企画を終え、来年度より開発に移るべく複数業者への提案依頼を実施中。年度内に業者を決定する予定である。	<ul style="list-style-type: none"> ・設定したゴールを目指し、新しいWebサイトの構築を図りたい。 ・他の広報施策とも連動した効果的な対外アピール活動につなげたい。
3. 3部会、安全経営フォーラムのスコープ、責務の見直しを実施して、会員へのIGSAP魅力度を感ずる体制へ変更する	<ul style="list-style-type: none"> ・見直したスコープ・責務をもとに3部会の活動を計画し活動した。 -Well-being部会: 事例収集、ウェルビーイングテックの定義策定 -情報発信部会: ホームページリニューアルの推進 -ホリスティック部会: Safety2.0登録審査制度の見直し ・安全経営フォーラムを実施し、主にウェルビーイングに関する情報提供を行った。 ・モノづくり準備委員会からモノづくり委員会を発足させた。 	△	モノづくり委員会の発足により、新規2社に入会いただき、また経済産業省にもオブザーバ参加いただくこととなった。IGSAP認知度向上に貢献したと言える。	ウェルビーイングテック実証実験など、引き続きIGSAPの魅力度や認知度の向上に向けた施策を実施していく。

注)評価 90～100%達成 ○
 50～89%達成 △
 50%以下 ×

2023年度活動総括

* 主に成果を中心に

1. Wellbeing Tech Showにて建設委員会ブースを展示したことにより、国内外においてIGSAPの知名度、認知度が向上した。
 2. 建設セーフティオフィサ
 3. 各社の安全関連への取り組み、新技術について情報共有することは各社にとって参考になった。
- 建設委員会: 5月26日、8月24日、11月9日、2月21日

重点テーマ	2023年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. 建設業界での安全への取り組み、安全方策を国内外に発信することにより、IGSAPの知名度、認知度の向上を目指し会員数を増加する。国内外の講演会での講演、雑誌等において記事投稿する。	<ul style="list-style-type: none"> ・WellbeingTechShowにて、建設委員会ブースを設置。建設委員会の働く人のWellbeingに向けた方針と取組、構成企業の独自の取組を一般に公開。日刊工業新聞にて告知も行う。 ・情報発信部会: ホームページリニューアルの推進 ・ホリスティック部会: Safety2.0登録審査制度の見直し ・安全経営フォーラムを実施し、主にウェルビーイングに関する情報提供を行った。 ・モノづくり準備委員会からモノづくり委員会を発足させた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・3日間で13,000人の来場者があった「未来モノづくり国際EXPO2023」内、WellbeingTechShowにてIGSAPの建設委員会を紹介することでIGSAP建設委員会の国内外での認知度が向上。パトライト様、大和ハウス工業様の入会きっかけとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対外的に建設委員会の活動情報を発信することでメンバーの増加を図る。(7ゴールデンルール等)。
2. 建設業界での安全方策(ICT活用した商品、システム)及び安全事例(課題)の発表から安全方策について討議、検討する。 ・発表者(委員会参加各社、外部有識者、建設関連会社など) ・討議内容を踏まえて期末に委員会として報告書作成	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティオフィサ資格の建設業展開を目指し、「建設セーフティオフィサ」の開発を建設委員会として取り組み始める。(2025年度実装を目指す) ・建設業界で働く人により分かりやすく安全方策をとる際の目的と意識を伝える為に、7ゴールデンルールを建設現場で有効活用する為のWGを設置。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・建設セーフティオフィサのe-learning教材の収録も進み、来年の10月に実装するスケジュールで進めている。 ・各社での安全対策に関連するシステム、商品の紹介は大変参考になり、建設業界における災害事例の共有、討議ができた。 ・7ゴールデンルールを建設業界に届けるコンテンツ(案)ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各社の安全への取り組みの情報共有、討議は効果があり継続して実施していきたい。 ・IGSAPの提唱する協調安全を、建設現場で実現するSafety2.0(システム)、現場安全に関する知識、意義を共通言語で共有する為の建設セーフティオフィサ資格(ヒト)を建設委員会として推進し、建設業界の安全レベルを底上げしていく。
3. iConstruction関連の下記2つのPJでの安全への取り組みに対する情報を委員会共有するとともに、IGSAPの建設委員会として建設における協調安全について提案の土台作りをする。(他委員会との協議も視野) * 国交省(自動化・自律協議会) * 一社)日本建設業連合会(協調領域WG) 検討テーマ: 発注者、設計者、施工業者の連携によるリスク低減、人(作業員、運転者)への支援システム、無人(遠隔)運転、ドローンの安全、人材育成など	建設機械施工の自動化・自律化協議会の「安全・基本設定WG」に、唯一の安全に関わる任意団体としての立場で、IGSAPから枝村副委員長が参加。 安全ルールを作るための旗振りをする国交省の事務局に対して、機械安全・労働安全について、個別の説明会などを実施。IGSAPとして入り込むべく、杉浦副委員長(日建連代表として参加)・枝村副委員長が関係構築に動いている。	○	国交省が進めている建設機械の自動化、自律化を進める上で、有効かつ実務的な安全対策の方針を定めるには、協調安全の概念が極めて重要であることが分かった。協議会やワーキングメンバーに有識者が少ないことで協議会としての進捗が遅いことが課題だが、協調安全に基づく安全対策の大筋を示すことができた。	国交省が主体のプロジェクトであり、時間がかかるが、省庁との関係は重要なので、継続して推進する。

注)評価 90～100%達成 ○
 50～89%達成 △
 50%以下 ×

2023年度活動総括

*主に成果を中心に

1. 力量基準分析表を作成し各資格別に分析した。
2. Sierのロボットアセッサ資格取得目指し、Sier協会とのコラボ実施。
3. 協働ロボットの導入課題と解決策についてをテーマに、ユーザ、Sier、メーカーの立場からの意見、コメント等をまとめた。

ロボット委員会開催：6月6日、8月29日、12月13日、2月21日

重点テーマ	2023年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. ロボットシステム分野における人材育成計画立案 ・ロボットシステムの安全に関わる人材の力量調査 ・RSA資格の申請者の増加(300名) Sier協会以外の広報活動検討	・力量基準体系表を作成し、テーマ1作業チームにて内容精査、検討の実施。 ・Sier協会事務局と連携して、SSA、RSA受験のための講習会を実施。	○	・ユーザ、設計技術者(Sier)にとって要求されるタスクについて、知識ベース、技能ベースの力量を導入段階から最終廃棄されるまでを分析し、R-SSA、R-SA、R-SLA、R-SEA、労安規則特別教育に分けて、それぞれの資格における必要要件を検討した。 ・Sier協会に対し、SA、RA資格取得を推奨、今後継続受験目指し、団体講習会を実施した。	・今年度に引き続き、各資格要件とユーザ、設計技術者の立場での適正が正しく評価されているかについて、降検討していく。 ・Sier協会とのコラボを開始したが、会員メンバーに対しRSA資格取得の必要性について、広報等により広く推進していきたい。
2. ロボットシステムの安全における課題/調査 ・AMR/協働ロボット/産業用ロボット/サービスロボット等	・「協働ロボットの導入課題と解決策について」をテーマに花王での導入事例と課題、SA協議会RSA部会でのメーカ、Sier、ユーザのそれぞれがかかっている問題と解決策について調査の実施。	○	・ロボットシステム安全部会、SA協議会RSA部会と連携し、花王、IDECファクトリーソリューションズの事例発表、スキルアップミーティングでのユーザ、Sier、メーカーそれぞれ協働ロボットの課題と解決策提案を報告書としてとりまとめた。	今回の調査研究において協働ロボット導入が進まない問題点についてユーザ、Sier、ロボットメーカーの意見から、協働ロボット導入におけるリスクアセスメントとリスク低減方策の難しさが課題であることから、次年度以降引き続き調査研究を進めていきたい。
3. 海外のロボット安全対策の実態調査 ・ロボットシステムの安全についての実態調査の実施	・調査対象およびアンケート内容等具体的実施方法など検討。	△	・予備調査を実施したが表面上の回答に終わり、民間レベルの調査では人員、コストの問題で限界があることが解った。	調査研究テーマの難易度高く(人員、コスト)、ロボット委員会での活動とせず他機関での調査などの入手に変更する。

注)評価 90~100%達成 ○
50~89%達成 △
50%以下 ×

活動総括

*主に成果を中心に

1. 協調安全に関する産業界での認知レベルは高まってきているが、アカデミアでの認知レベルを高めるための具体的な活動が計画できなかった。
2. 製造業、建設業のそれぞれの異なる作業環境の事例を共有し、協調安全技術の活用・適用可能な現場は多岐にわたることを確認できた。
3. 欧州機械規則等の安全規格の変化を共有することができた。

委員会 第1回 2023/5/29(委員会研究会合同)、第2回 2023/8/31(委員会研究会合同)、第3回 2023/11/27(委員会研究会合同)、第4回2024/2/26(委員会研究会合同)

重点テーマ	2023年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. 協調安全に関する共通認識の醸成のための議論	・第1回合同委員会において「新しい時代の安全」協調安全の概念、事例、課題について」と題して松浦事務局長より説明し、意見交換を実施	△	協調安全の下記の目指すべき方向について共有できた。 1. 人の能力を活用して、人の行動によりリスク低減、リスク回避する。 2. 人、機械、環境がリスク関連情報を動的に共有することによって、危険源が停止する前に危険状態を避ける。 3. リスクアセスメントにおいて静的、動的要素も考慮することにより、きめ細かなリスク低減策 4. 作業者の力量によって危害回避の可能性が変わり、機械の制御は2重制御(停止、脱離)から多重制御へ 5. 安全性と生産性の両立可能なシステムを志向 6. 機械安全、搬送安全、協調安全の方策を最適な組み合わせでリスク低減策を実施 7. 個々の機械、部品の安全は重要ではあるが、全体での最適化を目指す。	協調安全に関する産業界での認知レベルは高まってきているが、アカデミアでの認知レベルを高めるための具体的な活動が計画できなかった。
2. 協調安全技術の活用の現場・効果を知る協調安全の活用が効果的と思われる事例を学び、改善方策を議論する。 ・技術面・費用面から機械安全(閉鎖・停止)を適用しにくい事例 ・機械安全を適合しているが生産性に課題がある事例 ・安全を人に依存している事例	第2回合同委員会の事例発表 ・日立建機 調音機 ・建設機械事故事例、建設現場環境の実態、日立建機の取り組み ・オムロン 松川機 ロボットと人間の協働作業空間における課題 ・ROE 橋井機 Safety2.0適合システム高所作業車の上昇時検まれ防止システム 第3回合同委員会の事例発表 ・日東電工 高木機 ・ミキシングロールにおける危険行動/保護具着用喚知 ・NIPPO 相田機 最近多い事故(技術面、費用面から対策が難しい事例) ・清水建設 小島機 Safety2.0への取り組み 第4回合同委員会の事例発表 ・大林組 杉浦機 建設業における協調安全の考え方は	○	製造業、建設業のそれぞれの異なる作業環境の事例を共有し、協調安全技術の活用・適用可能な現場は多岐にわたることを確認できた。	事例研究より屋外環境や第3者が絡む環境に於ける安全性の担保は難しい課題であることがわかった。今後、事故を種にして改善につなげなければならぬ。そこで以下の点について事例研究を進めていく。協調安全では、事故データを蓄積し、事故事例に近い状態でアラートを発するなど、危険な状態にさせないシステム。安心の観点では、危険になる状態が減っていることを示す定量指標。経営者視点では安全に関する投資を促すため生産性が両立できることを示す指標。
3. 協調安全に係る新たな考え方を幅広く学び、これらを具現化するための技術を調査、研究する。	第1回/4回合同委員会において、欧州機械指令(2006 Machinery Directive)の適用Regulationへの位置づけの変更と内容について、三菱電機神奈川より説明。 第2回合同委員会において、産総研(AIST)を見学。 ・モーションキャプチャ技術や慣性センサによる計測デモとAI技術による身体力学的負荷推定のデモ(人の動作の把握) ・遠隔による物理作業のデモ ・小笠原製鉄所建設現場の保護環境 ・バイオ研究環境(人の違いによる作業のロボットによる再現) ・小売店機械環境(コンビニでのロボット活用研究)	○	機械指令(Directive)と機械規則(Regulation)の位置づけの、変更点を理解する上で有意義であった。 産総研の見学では、AI技術とロボットの活用の有用性について知識共有できた。	規格動向については引き続き調査・発表を実施する

注)評価 90~100%達成 ○
50~89%達成 △
50%以下 ×

委員会の目的	委員会構成	成果物(レポート/刊行物など)
日本発の新たな安全の考え方である「協調安全」をものづくりの現場で下記2点を目指して、普及させる。 ①安全性と生産性の両立を目指す「ものづくり現場」を実現 ②人のいきがい、やりがいを尊重して「働く人のウェルビーイング」を実現	村田委員長、梶屋副委員長 委員会参加14社28名 オブザーバ 経済産業省(国際標準課、ロボット政策室)	技術文書(協調安全におけるリスクアセスメント)

重点テーマ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
委員会開催 1 委員からの協調安全の課題、不足点などの発表から、取組テーマを、抽出して決定する。	○	○	SIAS	○		○	○	シンポジウム	○		○	○	
2 標準化テーマを優先順位を決めて体制を検討して討議する。 第一段: 協調安全のリスクアセスメント(トヨタ様提案)	トヨタ案へのコメント募集、討議(国際標準化含めて) → コメント踏まえて文書化 → 国際標準化検討、現場、現物での検証(必要であれば)												
3	WG体制決定(頻度、開催方法など) → 委員会報告 → 委員会報告 → 委員会報告 → 委員会報告												

注) 評価 90~100%達成 ○
 50~89%達成 △
 50%以下 ×

2023年度活動総括	*主に成果を中心に
1. 昨年度まではオンライン中心であったスキルアップミーティングは、本年度から集合とオンラインによるハイブリッド形式に変更により参加者の満足度向上している。(アンケートから) 2. 部会合同のスキルアップミーティングにより、講演内容が広がり入手できない情報も入手と好評である。 3. SA資格者課題座談会では、所属組織を超えた議論が出来た。	

SA協議会開催日: 2024年3月1日

重点テーマ	2023年度活動結果		
	実施内容	評価	成果
1. 資格者のレベルアップと社会的認知度向上のための活動 ・協議会、部会で具体的案の検討 ・外部団体との交歓会、情報発信の検討、実施	・SA部会、RSA部会においては、WGや幹事会メンバーで、それぞれ資格者が望む情報、知識や課題などを話し合いスキルアップミーティングや座談会を開催する。 ・ロボット委員会での協働ロボットについての討議にRSA部会幹事メンバーをオブザーバ参加頂き意見交換を実施する。	△	・定期的なスキルアップミーティングを実施することにより、安全知識のブラッシュアップ及び所属企業での安全関連情報の展開が出来たことにより、資格者の所属企業における評価が徐々に向上している。
2. SA、RSA、SO資格者間の情報交換会・勉強会の実施 ・各部会連携スキルアップミーティング(SUM)の開催(各部会ごと、合同) ・SUMのアンケートから資格者のニーズ、会社、業界での評価調査実施 ・リスクアセスメント支援Workshop開催とSUMでの成果発表	・スキルアップミーティング SA部会(関東) 11月10日、2月22日(RSA部会共催) SA部会(関西) 11月10日 SA中部 未開催 RSA部会 7月27日 2月22日(SA部会関東共催) SO部会 11月10日(SA部会関東共催) ・SA資格者課題座談会 11月18日	○	・RSA部会のスキルアップミーティングでは97%以上、SA部会(関西)96%以上が役立つと高評価、またアンケートによる参加者の要望や課題なども把握できた。 ・RSA部会では、会員毎に自由に討議できるZoomのブレイクアウトルームを活用して意見交換や会員からの提案頂いた。 ・SA部会各地区WGメンバー対象に愛知県労働局の方を招いた講演並びに自由討論型の座談会は所属組織を超えた議論が出来たと好評であった。
3.			

注) 評価 90~100%達成 ○
 50~89%達成 △
 50%以下 ×

2023年度活動総括

*主に成果を中心に

1. 学術論文等による競技用安全要求仕様書、リスクアセスメントひな形の普及を企画したが、締め切り等により達成できず。
2. 「協働ロボットの導入課題と解決策について」をテーマに、ロボット委員会、RSA部会等と連携しユーザ、Sier、メーカーの立場からの意見、コメント等をまとめた。

開催日：第1回5/16、第2回8/21、第3回11/14、第4回2/13

重点テーマ	2023年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. WRS2020の成果から運用面における安全についての提言	WRS2020で作成したの競技用安全要求仕様書、リスクアセスメントひな形を広くロボットシステムの競技会や展示会等で広く活用してもらうため、ロボット学会論文などで普及活動を実施する。	△	・今年度ロボット学会への論文掲載間に合わず、来年度ロボット安全特集にて掲載を目指す。 ・IGSAP専用ホームページによる競技用安全要求仕様書、リスクアセスメントひな形掲載による普及について検討した。	・今年度論文等掲載は間に合わなかったが、来年度は掲載や、IGSAPのHPでの紹介など認知活動を推進するとともに2025年12月開催予定のWRSものづくり競技会での活用を推進していく。
2. ロボットシステム導入について安全性についての研究 ・ロボット委員会と連携して、ロボットシステムの安全における課題/調査 ・AMR/協働ロボット/産業用ロボット以外	ロボット委員会と連携し、「協働ロボット導入における課題と解決」をテーマに活用事例と問題点について調査研究を実施した。	○	・ロボットシステム安全部会、SA協働会RSA部会と連携し、花王、IDECファクトリーソリューションズの事例発表、スキルアップミーティングでのユーザ、Sier、メーカーそれぞれ協働ロボットの課題と解決策提案を報告書としてとりまとめた。	今回の調査研究において協働ロボット導入が進まない問題点についてユーザ、Sier、ロボットメーカーの意見から、協働ロボット導入におけるリスクアセスメントとリスク低減方策の難しさが課題であることから、次年度以降引き続き調査研究を進めていきたい。
3.				

注)評価 90~100%達成 ○
50~89%達成 △
50%以下 ×

2023年度活動総括

*主に成果を中心に

- 1) ウェルビーイングテックの要件、方向性とスコープの確定を行う
- 2) ウェルビーイングの事例収集を行う
- 3) ウェルビーイングの実証事例からの評価基準検討、策定を行う

部会開催日：8月2日、8月18日、8月29日、10月10日、10月24日

重点テーマ	2023年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. ウェルビーイング・テックの要件、方向性とスコープの確定を行う。	左記を確定した。	○	ウェルビーイングの要件、方向性とスコープを、理事会で提案した。結果、承認されIGSAPとして要件・方向性が決定した。	ウェルビーイング・テックの要件、方向性とスコープの確定は達成したため終了とする。ただし、これから行う実証実験の結果を通じて、さらなる検討を行う。
2. ウェルビーイング・テックの事例収集を行う。	ウェルビーイング・テックに関する上記1. を満たす事例を3件収集し、紙面にて紹介した。加えて、実証実験の実現に向けての企画を開始した。	○	事例を収集した。 事例1. 無線で操作できる非常停止スイッチ 事例2. 高所作業車のフットスイッチ 事例3. 壁際での作業を効率化するアルミ合金製可搬式作業台	今後も実証実験の可能な事例収集を引き続き行っていく。
3. ウェルビーイング・テックの実証事例からの評価基準検討、策定を行う。	・上記の事例については、事例が収集された段階であるため、次年度に向けて実証実験の実現に向けて相手先との交渉を残りの期間行う予定である。 ・これまでと同様、製造現場での実験を行い新技術の導入に伴う作業効率とウェルビーイングの関係についての実証実験を行った。 ・上記の結果と、ウェルビーイング及びウェルビーイング・テックに関する論文を作成した。 ・働く人のための職場におけるウェルビーイング労働安全との関わりを明確化した。	△	・これまでと同様、製造現場での実験を行い新技術の導入に伴う作業効率とウェルビーイングの関係についての実証実験を行い、学術集会、研究会を主催して成果を発表した。 ・論文を掲載した(北條理恵子、清水尚憲、向殿政男、働く人のための職場におけるウェルビーイング労働安全との関わり、安全工学、Vol.62, No.6, 2023) ・上記の結果と、ウェルビーイング及びウェルビーイング・テックに関する論文を作成し、内容を学術雑誌にて紹介した。	引き続き、現場での実証実験を行った点は評価できると思うが、事例に基づく実証実験の進め方が十分でなかった。今後は、収集した事例の企業との交渉を行い実証実験の実現を行う。 ウェルビーイングの評価基準については来年度の課題としたい。

注)評価 90~100%達成 ○
50~89%達成 △
50%以下 ×

2023年度活動総括

*主に成果を中心に

1. Safety2.0適合審査登録制度ルールの全面見直しを完了し、次年度より運用開始
2. SO資格の建設分野への展開基盤を確立し、次年度から運用ルール開発予定
3. 建設分野の協調安全の取組みを各種国際行事を通じて他社に先駆けてアピール

部会開催日: 8/25

重点テーマ	2023年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. Safety2.0適合審査登録制度の見直し・国際化(梶屋)	1) 制度運営ルールの見直しと最新化 2) 各種行事・講演会等を通じた制度のプロモーション 3) 国内外関係機関との交流を通じた連携の模索	○ ○ ×	1) 委託審査機関のJCとともに、IGSAPとJCの責任分担の明確化を中心として全面見直しを完了 2) ウェルビーイング本への寄稿、GISHWラウンドテーブルのファンリテータ、東大向け・JMC向け講演実施 3) 対外機関向け連携よりもJC体制の国際化が先決の旨合意し、当面はアプローチを凍結	・制度の国際化を担うJC体制の国際化が先決との観点から国際化を加速するための支援を強化する必要あり ・IECEEで審議継続中のCoPG(要員認証制度)を将来的に協調安全の仕組みづくりに向けた位置づけを各社プロモーションを行う ・対外機関との連携に向けたアプローチは当面凍結し、JC対英の国際化を優先する必要あり ・左記重点項目とは別に、一般業界向けのIGSAP入会案内リーフレットを完成したことはプロモーションツールとして有益
2. SO資格制度等のグローバル具現化(有山)	1) 国内外の採用関心企業との連携 2) 英語版試験問題準備 3) 安全四字英語版(e-ラーニング副読本)の電子出版準備 4) 建設SOの企画推進(追加項目)	○ × × ○	1) 採用検討企業2社で英文字幕付きeラーニングデモ版モクダ実施した。ネイティブ視聴者より内容問題なく理解できるとの評価あり。 2) 英語版試験問題準備については、関心企業の採用が未定となったため進展せず。 3) 安全四字英語版についても、関心企業の採用が未定となったため進展せず。 4) 建設業界向けのSO資格のニーズ調査、制度内容の企画推進を行った。	・SO資格制度のグローバル展開について、採用検討企業2社と連携して進める方針としていたが、2社とも採用が未定となったことから、具現化が困難となった。 ・新たなSO資格として、建設SO資格の企画を推進。建設SOとしてのニーズ・要件調査、制度内容の検討を行った。
3. 建設委員会との海外活動交流共同推進(河田)	1) 海外建設関連ICT活用(人・機械・設備)情報の収集 2) 海外事例の紹介と国内事例の情報比較 3) 海外機関との交流を通じた連携模索	○ ○ ○	1) 情報収集拠点として国際EXPOでブース出展やリスク体験施設実演を行い国内外の関係者との交流を進めた 2) 国際EXPOのフォーラム講演やパネルディスカッションを通してWell-beingの実現・実感に向けた意見交換を実施。 3) 23rd World Congress Safety & Health at Workで日本からの建設関係参加(発表1件・ポスターセッション3件)の支援を実施。	・リスク体感車(選別号)を用いた作業者教育へ関心が集められた。国内外の安全関係者にアピールできる協調安全の概念の具体化を進める必要がある。 ・海外・国内とも共有できる安全・安心・ウェルビーイングに向けた活動を実施していく(7ゴールデンルールの普及など) ・日本からの情報発信を今後とも継続する必要がある。

注) 評価 90~100%達成 ○
 50~89%達成 △
 50%以下 ×

2023年度活動総括

*主に成果を中心に

1. 書籍『実践！ウェルビーイング』の発行
2. IGSAP Webサイトのリニューアル推進 部会: 4/28、6/5、6/23、7/13、8/23、11/2、11/27
- 3.

重点テーマ	2023年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. 書籍『実践！ウェルビーイング』の発行	・書籍『実践！ウェルビーイング』を2023年5月に発行した。中村先生、向殿会長、藤田理事らIGSAPを中心とした国内外総勢23名の執筆態勢を構築し、IGSAPが推進する安全・健康をベースにした広義のウェルビーイングを実現する実践的アプローチを解説した。	○	・著者IGSAPによる初めての書籍を発行した。(印刷部数5,000部) ・同書籍をベースに、 ・5月開催「未来モノづくり国際EXPO」(日刊工)で広報活動を展開した。 ・6月Web媒体「日経クロスステック」で10回連載した。 ・7月雑誌「広報会議」(宣伝会議)に掲載された。 ・12月雑誌「日経ものづくり」で10回連載を開始した。	<反省> ・今回の書籍の内容がやや専門的だったことを鑑み、もう少し気軽にIGSAPの活動を知ってもらい切り口があっても良い。 <来年度への課題> ・情報発信は継続的な取り組みが不可欠。書籍の第二弾を企画するなどしていきたい。
2. IGSAP Webサイトのリニューアル推進	・7名によるプロジェクトチームを組織し、IGSAPの現Webサイトのリニューアルに着手した。①現Webサイトの課題抽出、②リニューアルのゴール設定、③Googleアナリティクスを活用した現Webサイトの調査分析、を踏まえ、リニューアル後のWebサイトの④コンセプト、サイトマップ(コンテンツ)作成、を実施した。 ・これに基づき、業者7社に提案依頼し6社が応じている。3月中に各業者のプレゼンを行い、業者選定する予定である。	○	・現Webサイトの課題を抽出できた。 ・ユーザー数やアクセスの多いページなど現状分析ができた。 ・改訂Webサイトのコンセプト、サイトマップを作成できた。 ・改訂Webサイト作成の業者への提案依頼ができた。	<反省> ・今回はプロジェクトチーム内で検討を進めたが、会員から広く意見を求めても良かった(各委員会の委員長には意見を求めた)。 <来年度への課題> ・プロジェクトチームで定めたゴールを目指し、新しいWebサイトの構築を図りたい。

注) 評価 90~100%達成 ○
 50~89%達成 △
 50%以下 ×